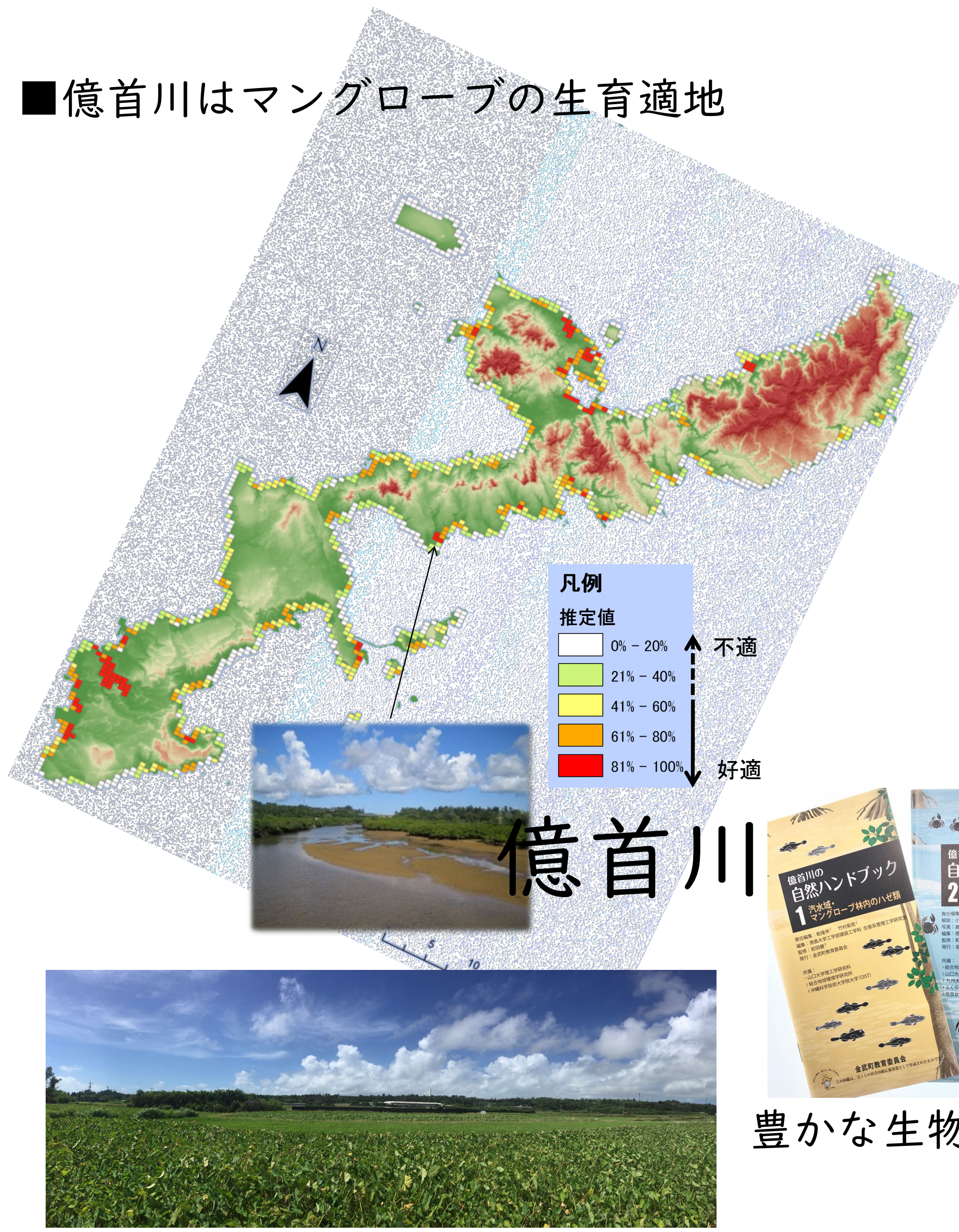


# 沖縄県金武町における マングローブ林の持続的活用と保全に関わる包括的施策

キーワード：マングローブ, 保全計画, 地域資源, ツーリズム, 総合計画

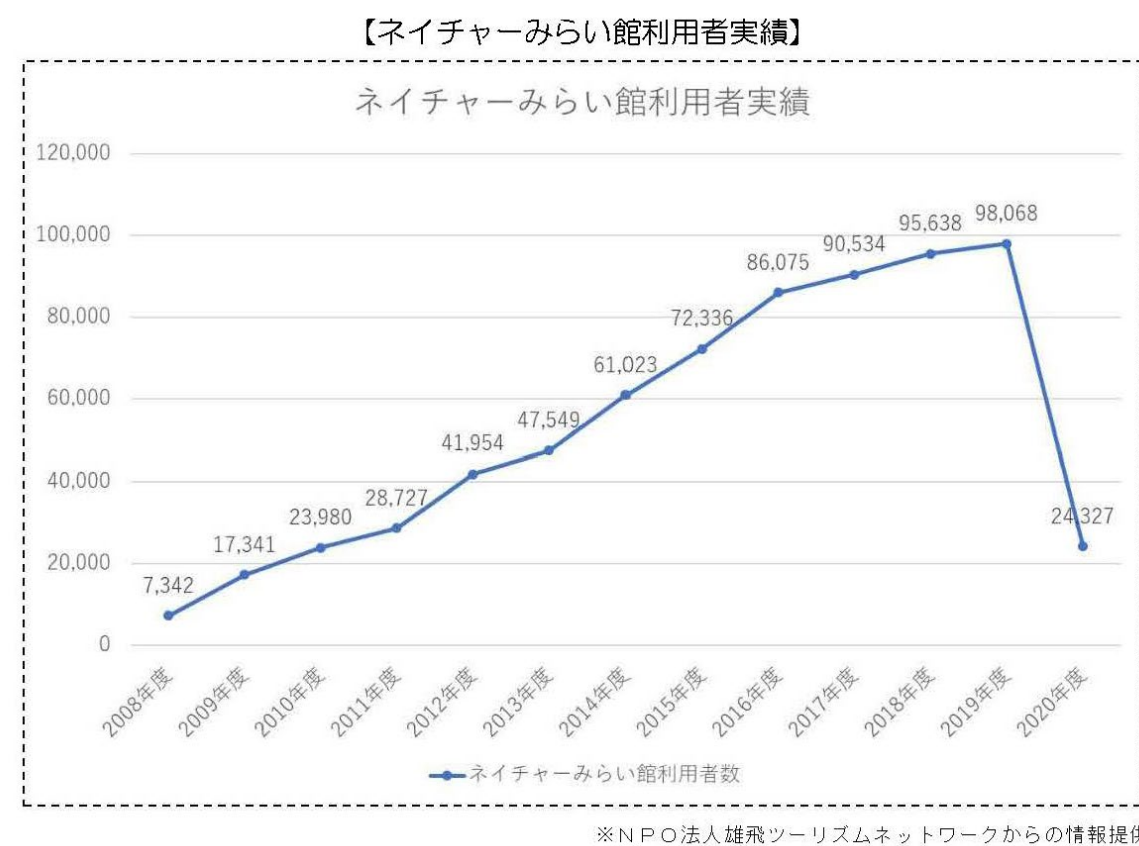
## ■億首川はマングローブの生育適地



## ■マングローブ林は観光資源



ネイチャーみらい館の利用者数  
2014年度 61000人  
2020年度 98000人



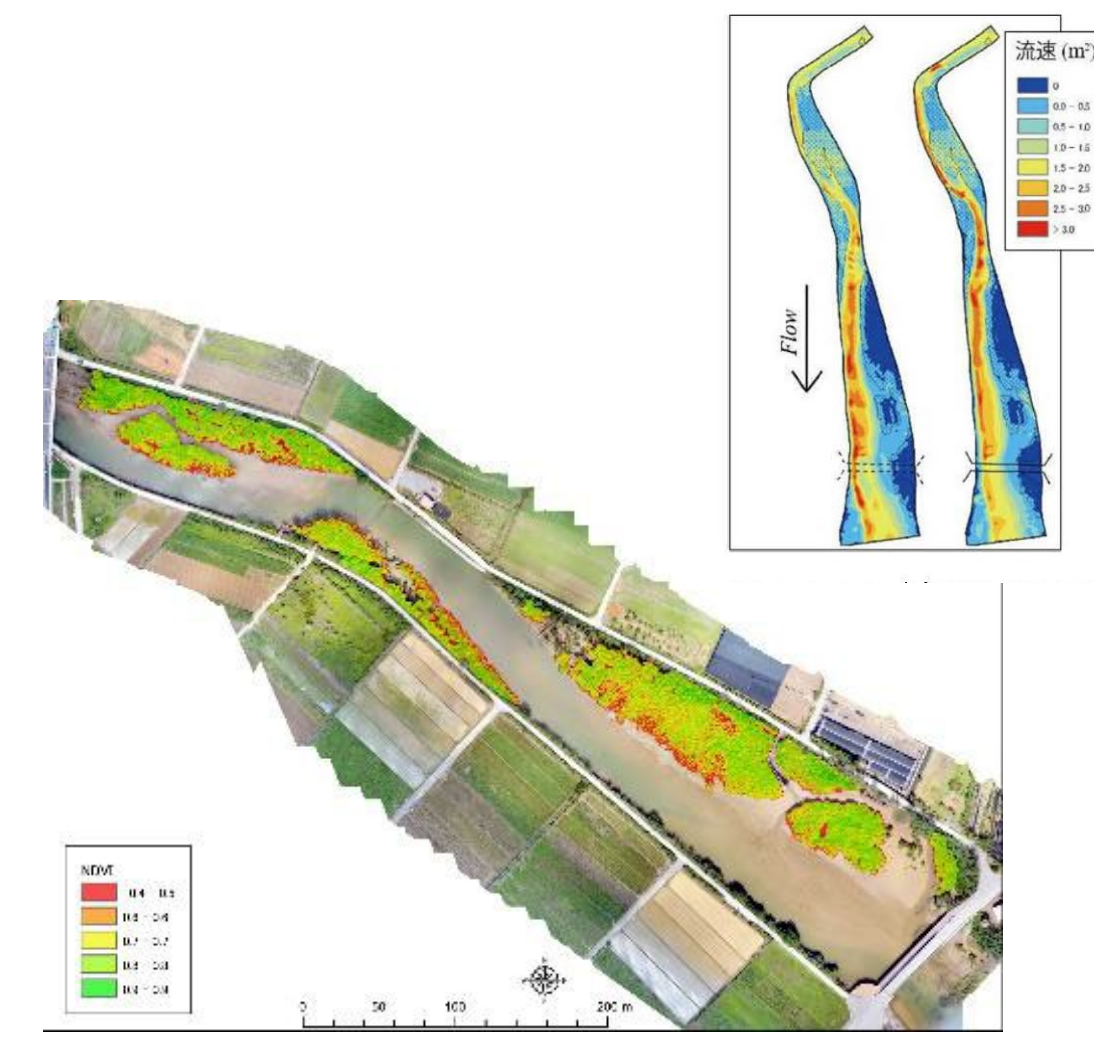
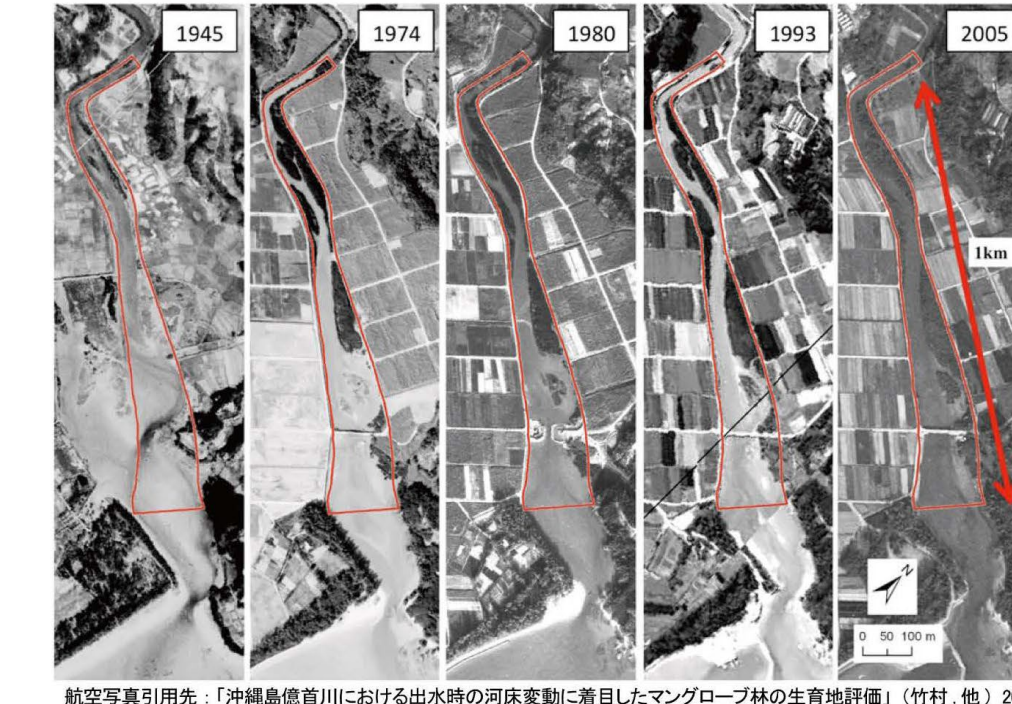
マングローブ林は  
グリーンインフラ

## ■マングローブ林の危機



- ・ 圃場整備にともなう河道の直線化（狭窄化）
- ・ 金武ダムの造築
- ・ 橋の造築

- ・ 倒木、枯死木の発生
- ・ 河床浸食
- ・ 土砂供給の変化



研究者による評価・診断

## ■億首川環境保全推進連絡協議会（2015/3）

- 【目的】ステークホルダー間での情報共有
- 【事務局】研究者など
- 【参加者】観光事業者、研究者、金武町、沖縄県、内閣府



種子の着床を促進するための河床の試験掘削（2017/3）

展開

## ■億首川マングローブ保全再生・活用推進協議会（2018）

- 【目的】グリーンインフラとしてのマングローブ林の持続的な利用
- 【事務局】金武町
- 【参加者】観光事業者、地元住民、研究者、金武町、沖縄県、内閣府

## ■総合計画にグリーンインフラとしてのマングローブ林を明記

【第5次金武町総合計画】後期基本計画（金武町 2021）

“億首川マングローブ保全再生・活用計画（仮称）”を策定し、農業と関連させながら、億首川沿いのマングローブ林を活用した観光・体験メニューを推進できるよう、NPOや関係機関等との連携を図る



第5次金武町総合計画【基本構想】

### 3. まちづくりの課題

#### (1) 観光客の誘致と地域活性化

金武町はこれまで、億首川周辺において観光客の誘客や地域活性化を図るため、自然体験施設、プロムナード施設、野球場及びサッカー場などを整備してきました。また、ギンバル訓練場跡地には地域医療施設などが整備、稼働しておりホテルや温泉施設についても、今後の整備が検討されています。さらに、新開地地域は異国の雰囲気を感じることができ貴重な空間となっており、音楽イベントなどが行われています。

このように、町内の各種施設や地域を観光資源として捉え、様々な地域活性化事業に取り組んできたものの、町外からの知名度は未だ高いとはいえない状況にあり、町内資源を有効に活用し、滞在型観光へ展開することが大きな課題となっています。

#### (2) 雇用の場の創出・確保

金武町における完全失業率は、平成22年の15.7%（国勢調査）から改善に向かっていますが、平成22年の国勢調査における完全失業率は、11.7%と依然として県平均よりも高い数値となっています。また、平成27年3月に行った町民アンケートでは、町外へ引っ越したいと思っている町民の多くが、働く場所がないことを理由に挙げています。

金武町では、町内の地場産業の強化や創業・雇用対策の事業を展開してきたものの、その効果はまだ十分とはいえない状況であり、今後も町民や若者のはたらく場の創出・確保が重要な課題となっています。

## ■億首川マングローブ保全再生・活用基本計画の策定（2022）

- ・ マングローブの保全・再生を進める
- ・ グリーンインフラとしてマングローブ林を永続的に利用していく仕組みの構築

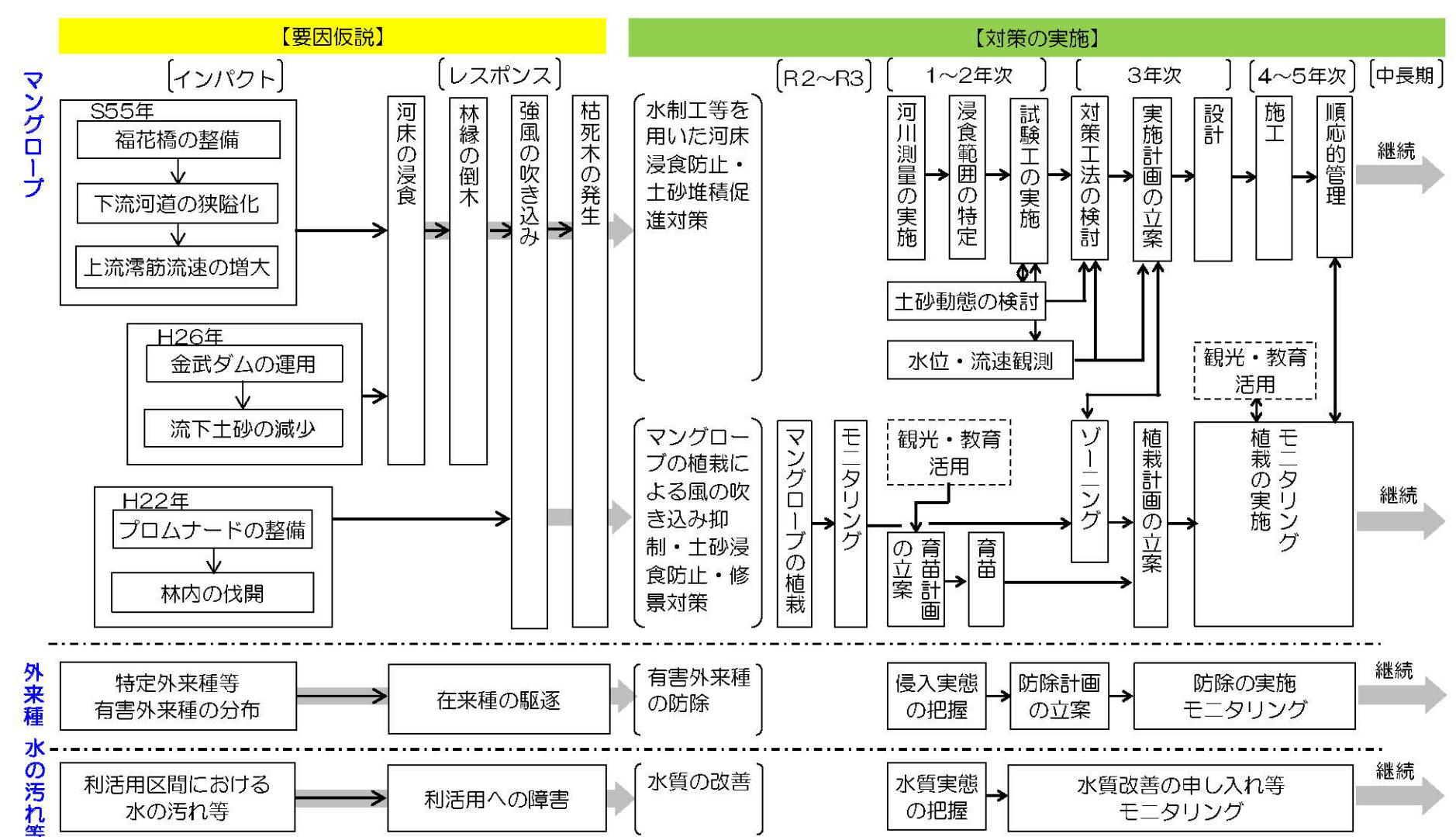


図 1.2.1-1 実現性の高い対策の実施に向けた基本計画

### 【目標】

観光事業者、億首川周辺の農家、飲食業者、町の観光を担う観光協会等から構成される新団体を発足し、億首川周辺の資源や施設の活用方法及び保全管理方法、予算の検討、観光プログラムについて推進を図る場を構築

億首川周辺資源を保全再生してくための財源確保のため、利用者からのお金を保全再生に還元する「億首川周辺環境協力金（案）」を制定し、その協力金を利用して、清掃活動やマングローブの植栽等の保全再生活動を実施できるような体制構築

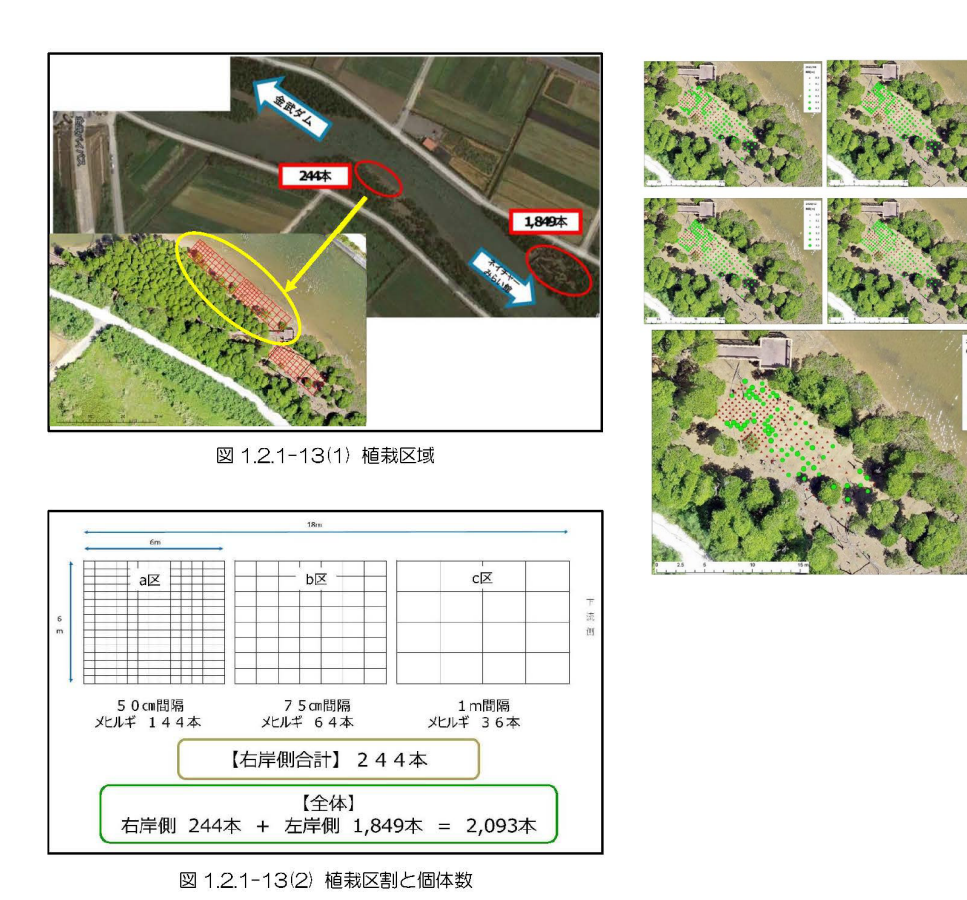
## ■億首川マングローブ保全再生・活用基本計画の実施

### クラウドファンディング



目標額3264800円  
6914000円、全国460人

### 苗木の植栽とモニタリング



### 金武町ツーリズム推進協議会の発足

